

一般社団法人
日本看護系学会協議会
ニュースレター
JANA

第 32 号

2025年3月31日 発行

編集発行

日本看護系学会協議会

(事務局)〒100-0003

東京都千代田区一ツ橋1-1-1

パレスサイドビル9F(株)毎日学術フォーラム内

一般社団法人日本看護系学会協議会

TEL:03-6267-4550 FAX:03-6267-4555

E-mail: maf-jana@mynavi.jp

未来に向けた連携・協働



一般社団法人 日本看護系学会協議会

会長 上別府 圭子

昨年元旦に起きました能登半島地震から1年3ヶ月が経とうとしていますが、昨秋の大雨災害、この冬の大雪と、自然の脅威は容赦なく、お住いの方々や、故郷に戻れない方々に、心よりお見舞いを申し上げます。また今年のニュースレターで、アメリカの山火事に言及したところでしたが、今年、ロサンゼルスや韓国、2011年3月11日の東日本大震災の被災地であった大船渡、そして、岡山県、愛媛県と国内でも相次いで山火事が起きています。風で火の粉が飛び燃え盛る炎が近づいてくる現場は、どんなにか恐ろしいことでしょう。山林や家屋そのものの被害損失ばかりでなく、中長期にわたり安心安全な生活が脅かされ、心身の外傷や、熱・粉塵・その他による健康被害など、看護系でも取り組むべき課題が次々に発生していると言えます。

今年、阪神・淡路大震災(1995年1月17日発災、死者6,434人)や、地下鉄・サリン事件(同年3月21日発生、死者14人、重軽傷者約6,000人)から30年、そして戦後80年(死者は世界で約5,400万人)に当たります。30年経っても、フクシマもサリンも終わっていない、80年経っても、第二次大戦は終わっていないと言われてます。遅発性PTSD(蟻塚亮二)があり、文化的トラウマ(Alexander)があります。能登に大雨が降ったり、大船渡に山火事があつたりすれば、トラウマを重ねて経験する人があって、難治性のPTSDになるリスクがあります。悲しすぎるできごと故にきちんと語られないことによって、トラウマや加害の世代間伝播が起きているとも言われています(胡桃澤伸)。私が申し上げたいのは、これらを「過去のこと」としてはいけないということです。

今朝、友人から、齊田トキ子先生の訃報を伺いました。齊田先生は2009年にフローレンス・ナイチンゲール記章を

受章された、看護界の大先輩にあたる方です。先生は、戦時召集令状(いわゆる赤紙)を受けて中国の上海市にあった兵站病院に配属されたそうです。当時、弱冠20歳の若さで、終戦の詔勅の後も引き続き傷病兵の世話や、死亡した将兵の遺体から指2本のみを火葬していいいに保管するという仕事に従事されたそうです(翌年4月まで)。この遺骨が日本で待つ家族に届けられたということで、重要な看護ケアであったと意味づけることができます。自然災害、人的災害の歴史には、看護師の活動の歴史が必ず併走しています。その時代を生きた証人が亡くなっていく中で、活動の歴史を遺していくことも必要なだろうと考えます。

これも今朝 American Academy of Nursing (AAN) から届いた週刊ニュースによると、気候変動に伴う自然災害やその他の公衆衛生的緊急事態に対応する看護師・公衆衛生看護師の急性期の役割について政策対話を行う集会「災害対応における看護師の連携：気候変動に備えた地域づくりのための公衆衛生看護リーダーシップの推進」が5月に予定されているということでした。公衆衛生専門家パネルは、小児・思春期・家族専門家パネル、新興感染症専門家パネル、精神医学・メンタルヘルス・薬物使用専門家パネルと協力して、この政策対話に取り組む予定とのことです。日本でも専門家間の連携は行われていると思いますが、活動資金や研究費を含む予算化など、政策を巻き込んだ連携が必須です。過去に真摯に向き合うことで、自分たちを知り、未来に向けた連携・協働を行っていくことが、私たちに課せられた仕事だろうと思います。

早いもので、JANAの会長を拝命して2年が経とうとしています。6月8日の社員総会をもって、新しい役員体制

へ引継ぎを行う予定となっています。この間、社員学会の皆さま、隣接領域の皆さま、そして役員の方々にも、たいへんお世話になりありがとうございました。この場を借りて、お礼申し上げます。

今期は、JANA誕生以来はじめて、委員会組織を創りました。JANAではこれまで、ひとりひとりの役員が、個別の領域を担当して参りました。ときに社員学会の皆様へお声掛けし、ご協力いただきながら、事業を展開して参ったわけですが、ひとり担当での限界がありました。そこで一昨年の社員総会にて、定款第6章に委員会に関する第27条をお認めいただき、その後、1つのプロジェクト（将来構想プロジェクト）のほかに、委員長、副委員長、必要数の委員から成る10の委員会を設置しました。今期1年目は委員会の編成に時間を要し、少々始動が遅れてご心配をおかけしたかもしれませんが、編成後は今日に至るまで、どの委員会・プロジェクトも活発に事業展開いたしました。本紙にも何人かの委員長が報告してくれていますが、活動の見えやすい委員会、見えにくい委員会はあるものの、どの委員会も活動を倍加しています。

またJANAとして、看護系各団体との連携を推進して参りました。日本看護系学会協議会（JANPU）のAPNブランドデザイン委員会に、当会APN制度推進委員会委員長が加わる、JANPUによるモデル・コア・カリキュラムを形成する調査に協力、日本看護科学学会（JANS）学術集会において当会主催のシンポジウムを企画しJANS理事長・日本看護協会（JNA）会長等に登壇いただく、「看護ケア開発・標準化のための看護ケアガイドラインの現状とニーズ調査」をJANSと当会の連携により実施、JNAによる専門看護師・認定看護師個人審査の変更に伴い学会から協力が得られるように本会から働きかける等の活動です。

会長としては就任直後の7月初めに、日本薬系学会連合設立式典にて祝辞を述べる機会をいただきました。件の日

本学術会議任命拒否問題が起きたときに、当時医学会連合会長だった門田守人先生によるお声がけで医療系学会連合（日本医学会連合、日本歯科医学会連合、JANA、および日本薬学会高倉喜信会頭）が一堂に会して話し合い、学術の独立性毀損に関する声明を発出しました（2020年12月1日）。このときの当会 小松浩子前会長からの情報提供が、その後の日本薬系学会連合設立にとっても役に立ったとのことで、現会長への依頼となったのです。この日本薬系学会連合との関係は、先日も設立記念フォーラムにお声がけいただくなどの形で、継続しています。とても悲しいことに門田先生はまもなくの初秋に逝去されました。お別れの会には参列が叶わなかったのですが、お花を供えさせていただきました。日本医学会連合会長には門脇孝先生が就任され、翌年、西村理事と共に挨拶に伺いました。その際、生物科学学会連合が中心となってとりまとめている「科学研究費助成事業の全体額倍増に関する要望書」にお誘いいただき、理事会の承認を得て当会も名を連ねるとともに、社員学会へも案内いたしました。今年にはいつてからは、日本学術会議第二部より「生命科学系の学協会連合体との円卓会議（仮称）」が初代会（第26期・第1回）をもち、医学会連合、薬系学会連合を含む22の学協会の連合体代表者の多くが一堂に会したのです（このような会長の動きに関して報告の機会があまりないので、この場を借りて記録させていただきました）。

連携・協働を行うにあたり、自分野のアイデンティティや向かう目標をいっそうしっかりと表現することが必要です。私たちは過去・内部・歴史を振り返り、検証や手当てを行うと共に、さまざまな個人や団体と連携・協働を図り、看護学の学術発展を推し進めることによって、人々の安心安全な生活と健康な未来を実現していきたいと思っています。社員学会の皆様、かわらぬご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。



日本学会議・学協会との連携、 Choosing Wisely キャンペーン



日本学会議・学協会との連携委員会委員長

西村 ユ ミ

本委員会は、「本法人と日本学会議・学協会との連携および協働を推進し、学術としての看護学の発展に寄与する」ことを目的としています。

2024年度は、日本学会議が主催する2つのシンポジウムの共催、1つのシンポジウムの後援をし、学術のあり方を検討しました。また、学協会との連携に関しては、日本医学会連合との協働、JANA社員学会との協働を進めました。

まず、日本学会議との連携について紹介します。JANAは、日本学会議の活動の中で、看護学に関する活動について協働しております。本年度は、共同社会におけるケアサイエンス分科会主催の第1回公開シンポジウム『わたしたちごと』としてのケア～家族だけでも、専門家だけでなく』（<https://www.scj.go.jp/ja/event/2024/372-s-1124.html>）を共催しました。本シンポジウムでは、まずこれまでのケアサイエンスの到達点を概観して参加者と現状の共有が行われました。さらに、第一部としてケアの担い手と担い方、ケア観の変化について話題提供が行われました。第二部では、これらの話題提供を基に、ケアサイエンスの普及と実装に向けた課題や進め方、目指すところについてのディスカッションが行われました。多分野の話題提供者・登壇者及び参加者との議論を通して、ケアの価値観を共有し、ケアを当たり前のもので共々に生きる社会をつくり育ていくために講じるべき策について検討されました。オンラインの参加者は、最大値368名と多数であり、多くの反響がありました。

2025年1月11日には、ヘルスケア人材共創に向けた看護学分科会主催の第1回公開シンポジウム「人口減少・人口偏在社会に求められるヘルスケア人材」（<https://www.scj.go.jp/ja/event/2025/376-s-0111.html>）を共催しました。本公開シンポジウムでは、ヘルスケア人材の専門分野として、看護学、医学、理学療法学の立場から、それぞれの視点から見た人口減少社会の課題と求められる活動が提案されました。看護学からは、森山美知子第二部会員が『看護職の地域・就業場所偏在と自律性における課題』について、手島恵連携会員が『グローバル・クライシス—保健人材の確保』について話題提供をしました。医師の視点からは、松本正俊氏（広島大学大学院医系科学研究科寄附講座教授）が『医師の地域偏在とその対策について』、また、理学療法の視点から浅川康吉氏（東京都立大学健康福祉学部理学療学科教授／一般社団法人日本地域理学療法学会理事

長）が『変貌する地域社会とリハビリテーション専門職の活用について』について発言されました。オンラインにて457名が参加し、現在の課題と未来を見据えた議論ができました。日本経済新聞の取材もあり、『日経グローバル』の記事でも紹介されました。2025年度も引き続き第2回の公開シンポジウムが予定されており、共催にて協働を進める予定です。

2025年3月1日には、公開シンポジウム「高齢者の健康と生活に与える環境の影響：学際領域の研究成果を融合」（<https://www.scj.go.jp/ja/event/2025/378-s-0301-2.html>）の後援しました。本シンポジウムでは、高齢者を取り巻く環境を多元的に、とくに data-driven で科学的に捉え、最新の科学的知見による住環境や交通・就労環境の構築による「エイジフレンドリーシティ（Age-friendly cities and communities）」の実現に向け、建築工学、健康科学、環境学、情報学等による学際領域が研究成果を融合させ、産業界と共にイノベーションを起こすための提言について議論されました。

次いで、学協会との連携について報告します。

一般社団法人日本医学会連合とは、上別府会長と共に本連合の門脇孝会長のもとを訪れ、今後の連携について協議し、まずは、内閣総理大臣他7大臣に向けた「科学研究費助成事業の全体額増加に関する要望書」への署名を勧めていただきました。JANAを含め16学会連合・協議会、及び多くの学会の賛同による要望により、科研費の予算が増加したと伺っています。

社員学会の皆様とは、Choosing Wisely キャンペーンを開始しました。本キャンペーンは、2012年米国内科専門医機構財団によって、患者・市民が本当に役立つ医療を“賢明に選択”できるよう、医療職と患者との対話を促進し、意思決定を共有することを目指して開始されました。JANA社員学会の皆様には、1月の情報交換会にて本件を共有させていただき、メールにて依頼をさせていただいたところでした。是非、各学会の理念と活動方針に基づき、患者や市民等に役立つ根拠に基づいたリストを作成いただきます。ホームページにて公開していただきたくお願いいたします。JANAでは、Choosing Wisely キャンペーンの専用ページを構築予定です。公開したリストをJANAに共有いただけますと、この専用ページに掲載し、より効果的に市民や患者、専門職に向けてキャンペーンを推進致します。

引き続きの協働をよろしくお願いいたします。

日本看護科学学会第44回学術集会との 合同シンポジウムの開催



将来構想プロジェクト リーダー

池田 真理

日本看護科学学会第44回学術集会において、日本看護系学会協議会－日本看護科学学会第44回学術集会合同シンポジウムを開催しました。

テーマ：「10年後、看護は何をしているのか 看護はどこへ向かうのか」

企画概要：本テーマのもと、JANAの理事の西村ユミ氏、池田真理氏の進行のもと、同理事の別府千恵氏の趣旨説明から始まり、永渕美樹氏（佐賀大学医学部附属病院CNS）、高橋弘枝氏（日本看護協会会長）、森田光治良氏（東京大学大学院講師）が登壇し、それぞれの立場から看護の未来について発表を行い、相互ディスカッションを行いました。

多くの参加者のうち、約70名がアンケートに回答され、以下の意見が寄せられました。

1. 参加動機とテーマへの関心

- ・看護の未来や働き方、役割について考えるヒントを得たいという意見が多く、「少子高齢化」「タスク・シフト」「キャリア形成」などが主な関心点でした。

2. 講演内容への感想

- ・臨床、研究、教育、政策の連携が重要という意見や、

登壇者の提案が実行的で示唆に富むものだったとの評価が目立ちました。また、永渕氏の実例が特に感動的だったという声も多かったです。

3. 具体的な課題と提案

- ・現場の負担軽減、看護の質の可視化、技術と教育の向上、地域格差への取り組みといった具体的な課題に対し、ICTや医療テクノロジーの活用などが有効とされました。

4. 今後への意見

- ・専門性の深化とジェネラリスト育成のバランス、看護教育者の質向上、現場とアカデミアの連携強化が必要との意見が見られました。加えて、10年後を見据えた職場環境整備の必要性も挙げられていました。

本シンポジウムは、看護職の多様な視点を通じて未来の課題や可能性を議論する場として、看護職全体の共通ビジョン形成を促すきっかけになったのではないかと思います。登壇者による提案や参加者の多様な意見が、会場参加者からの質問や対話を元に議論がされ、今後の看護の改革と成長に向けた重要な指針となることが期待されるシンポジウムとなりました。



APN制度推進委員会による 連続シンポジウム



APN制度推進委員会委員長
酒井郁子

今期はAPN制度推進に関して委員会が作られ、活動が活性化しました。APN制度推進委員会委員のみなさまと一緒に、連続シンポジウムを開催することができました。連続シンポジウムDay 1は2月16日「日本の未来の高度実践看護について意見を共有しよう だれのための、なんのためのAPNなのか」をテーマに開催しました。エントリー者数1,100人、参加者715人でした。連続シンポジウムDay 2は3月16日「APN制度を推進するための看護系学会のネットワークづくり」をテーマに開催しました。こちらはエントリー者数541人、参加者356人でした。この2回のシンポジウムにより、APNに関連したJANAの今後の取り組みの方向性を共有することができたと思います。内容についてはJANAのWebサイトで報告書として公表していきますので、ぜひご覧ください。なおこの2つのシンポジウムについて、こちらにダイジェスト版としてまとめたものを掲載します。

わたしはこの担当を4年間になってきましたが、この4年間でAPNへの認識、価値づけ、社会からの期待は大きく変化したことを実感していますし、よかったなと思っています。

前の2年間（2021-2023年）に行った実態調査の結果は、近日中にJANAのWebサイトに公開します。ぜひご覧ください。

連続シンポジウム

—APN制度の推進に向けて、看護の力をつなぐ2日間—

日本看護系学会協議会（JANA）では、APN（高度実践看護師）制度の推進に向けた連続シンポジウム（Day 1・Day 2）を開催しました。多様な立場からの意見と実践が交差した本シンポジウムは、制度化に向けた新たな一歩となりました。

【Day 1】制度化の展望を多角的に考える

Day 1（2月16日）は「多様な視点からのAPN制度の展望」をテーマに、医療者、行政、看護団体など多様な立

場の登壇者による講演が行われました。市民・患者の視点からは「看護の役割が十分に伝わっていない」という課題が提示され、専門職の立場からは「制度の不明確さが現場での活用を阻む」との指摘がありました。

また、厚労省や日本看護協会、JANPU（日本看護系大学協議会）などの組織的取り組みも紹介され、制度設計の複雑さとともに、それに立ち向かうための具体的な動きが共有されました。参加者からは、「制度の全体像が見えた」「今後の議論に参加したい」といった声もあり、学会間連携の重要性が再確認されました。

【Day 2】学会間連携とネットワーク構築へ

Day 2（3月16日）は、「APN制度を推進するための看護系学会のネットワークづくり」を主題に、Zoomウェビナーで開催されました。第1部～第3部では、日本看護科学学会や災害看護学会、在宅看護学会など多くの学会からの実践報告が行われ、現場での取り組みや課題が具体的に紹介されました。

総合討論では、「APNの活動の可視化」「共通コンピテンシーの整備」「学会連携による教育の場づくり」などが活発に議論されました。JANAが「ハブ」となり、専門性の異なる学会が連携してプラットフォームを構築する構想も提示され、今後のネットワーク形成に向けた希望が広がりました。

また、「APN制度の定義」にこだわるのではなく、現場の実践を積み上げて“見える定義”を社会に示していくべきという新たな視点も共有されました。

Day 1、Day 2とも、詳細な報告書は近日中にJANAのWebサイトに公開します。

今回のシンポジウムでは、制度構築に向けた“多様な知見の交差”が生まれ、看護界全体が連携する重要性があらためて浮き彫りになりました。今後もJANAでは、APN制度の推進に向けた活動を続けてまいります。



〈社員学会紹介〉

一般社団法人 日本在宅看護学会 (Japan Academy of Nursing for Home Care)

理事長 山田 雅子

こんにちは！一般社団法人日本在宅看護学会です。2011年に任意団体として始動し、2014年に法人化しました。本会は在宅ケア関連学会の中でも、多職種が集う学際的な学会ではなく、看護学の視点から在宅療養者の暮らしを支援することを広く学び合うことに焦点をあてた役割を持つと考えています。

在宅看護は単に訪問看護のことだけを扱うのではなく、さまざまな健康課題のために暮らしにくさを経験している人が、暮らしに困らないように支援することを広く扱うととらえます。地域で活動している訪問看護師、医療・介護連携に関わっている看護師、教員、研究者などが集い、看護として何をどうやって実践していくことがこれからの日本に必要なのかという広い問いについて、語り合うことを大切にしています。在宅看護に関する研究、教育、実践の発展に向けた活動、高度実践看護の質の向上や役割の明確化にも力を注いでいきます。

地域包括ケア時代を迎え共生社会をめざす今日、在宅看護への期待は高まるばかりであります。その期待に応えられるよう、実践値を蓄え、人材育成に関わりたくと考えています。



一般社団法人 日本脳神経看護学会 (Japanese Association of Neuroscience Nurses, JANN)

理事長 百田 武司

このたび、JANA（日本看護系学会協議会）に加盟し、看護学術界との連携を強化できることを心より感謝申し上げます。本学会は、1974年に「日本脳神経外科看護研究会」として設立され、2005年に「日本脳神経看護研究会」へと名称を変更し、

脳神経看護の発展に寄与してまいりました。そして、さらなる組織強化を目的に法人化を進め、2024年4月1日より「一般社団法人 日本脳神経看護学会」として新たな体制で活動を開始いたしました。

脳神経疾患を持つ患者の看護の質を向上させるため、専門性の高い人材育成にも力を入れており、2010年には日本看護協会に働きかけ、「脳卒中リハビリテーション看護認定看護師教育課程」の認可を実現しました。現在、脳卒中看護関連の認定看護師の約55%が本学会に所属しており、2026年度には学会認定の「脳神経看護師資格」の創設を予定し、さらなる専門性の向上を支援してまいります。

また、国際的な活動として世界脳神経看護学連盟（World Federation of Neuroscience Nurses, WFNN）に加盟し、2013年には日本でWFNN世界大会を開催しました。国内では、脳卒中医療の向上を目的とする「日本脳卒中医療ケア従事者連合」に加盟し、「脳卒中相談窓口マニュアル」の作成にも看護師代表として参加しました。このマニュアルは日本脳卒中学会より公開され、現在、一次脳卒中センター（PSC）には「脳卒中相談窓口」が設置され、脳卒中認定看護師や専門看護師の配置が推奨されています。

本学会は全国9つの地方部会（北海道、東北、関東、北陸・新潟、東海、関西、中国、四国、九州・沖縄）を設置し、学術交流の促進にも取り組んでいます。地方部会では、研究発表会やセミナーを開催し、臨床における実践的な知識の共有を図っています。法人化を機に、地方部会の活動をさらに活発化させ、学会員の専門性向上に寄与できるよう努めています。

JANA加盟を契機に、今後も学術研究の推進、臨床実践の向上、教育活動の充実に努め、脳神経看護のさらなる発展に貢献してまいります。引き続き、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

詳細は学会公式サイトをご覧ください：

<https://www.jann-1973.jp/about/>



【役員】

会長

上別府 圭子

副会長

酒井 郁子（APN制度推進委員会）

理事

安達 久美子（総務委員会）

池田 真理（将来構想プロジェクト）

井上 智子（公的研究費拡大推進委員会）

佐々木 幾美（災害看護連携委員会）

佐藤 正美（広報委員会）

田高 悦子（看護ケアガイドライン普及推進委員会）

西村 ユミ（日本学術会議・学協会との連携委員会）

別府 千恵（医療安全推進委員会）

前田 ひとみ（研究倫理推進委員会）

山川 みやえ（総務委員会）

監事

浅野 みどり

太田 喜久子

—編集後記—

現在の役員メンバーで発行する最後のニュースレターになります。皆さん、JANAの活動に興味関心を寄せていただけたでしょうか。Webサイトやニュースレターを通して、看護学の学術発展のために、他の看護系学会の活動やJANAの活動、また日本学術会議における議論や活動などを知ることができましたでしょうか。

能登半島の人々は、令和6年元旦の能登半島地震に加え9月の集中豪雨により被災し、未だ復興の実感を抱けない状況にあると報道されています。アメリカのロサンゼルスでの大規模な山火事では1万6,300棟近くも全焼し、また日本でも、大規模な山火事が複数個所で起きています。今年の夏もまた猛暑となるようです。看護学研究者として、被災した市民の健康問題に対し、看護学研究を進展させ、知見を社会へ還元する使命があります。それにはやはり、JANAとしての活動が鍵になると考えます。

今年度、JANAの社員学会が50となりました。より一層、JANAの活動について興味を持って皆様へお伝えできるよう、Webサイトを含め、このニュースレターやニュースレター速報をさらに工夫して、広報活動をしてまいります。ご意見やご提案がございましたら、ぜひとも事務局までお寄せください。

（広報委員会委員長 佐藤正美）

社員学会一覧

2025年3月末現在

学会名	理事長	学会連絡先						ホームページアドレス
		郵便番号	学会連絡先住所	学会TEL	学会FAX	学会E-mail	宛先(担当者)	
1 公益社団法人 日本看護科学学会	吉沢豊子	101-0041	東京都千代田区神田須田町1-5-14 ダイヤモンドビル6階	03-3525-8428	03-3525-8429	office@jans.or.jp	吉川	https://www.jans.or.jp/
2 一般社団法人 聖路加看護学会	片岡弥恵子	104-0044	東京都中央区明石町10-1 聖路加国際大学内	03-3543-6391	03-5565-1626	slnr@slcn.ac.jp	梅崎	https://slnr.or.jp/
3 一般社団法人 日本がん看護学会	鈴木 久美	550-0001	大阪府大阪市西区土佐堀1丁目1番23号 コウタイ肥後橋ビル3階D号室 日本がん看護学会事務局		06-6447-2877	info@jscn.or.jp	山本 麻理	http://jscn.or.jp/
4 一般社団法人 日本看護学教育学会	前田ひとみ	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル (株)毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jane@mynavi.jp	谷本	http://jane-ns.or.jp/
5 一般社団法人 日本看護管理学会	武村 雪絵	150-0013	東京都渋谷区恵比寿3-29-17 サンティールビル201号室 一般社団法人日本看護管理学会 管理事務所	03-6721-6803	03-6721-6823	kaikai@janap.jp	菊本	https://janap.jp/
6 一般社団法人 日本看護研究学会	叶谷 由佳	170-0013	東京都豊島区東池袋2丁目39-2 大住ビル401 (株)ガリレオ学会業務情報化センター内	03-3982-2030	03-5981-9852	g027jsnr-mng@ml.gakkai.ne.jp	竹下 清日	https://www.jsnr.or.jp/
7 一般社団法人 日本救急看護学会	山勢 博彰	164-0001	東京都中野区中野2-2-3 (株)へるす出版事業部内	03-3384-8030	03-3380-8627	jaen@herusu-shuppan.co.jp	仲澤	https://jaen.jp/
8 一般社団法人 日本クリティカルケア 看護学会	宇都宮明美	162-0833	東京都新宿区笹岡町43 新神楽坂ビル2階	03-5946-8847	03-5229-6889	jaccn@supportoffice.jp	水嶋 弘江	https://www.jaccn.jp/
9 一般社団法人 日本公衆衛生看護学会	岡本 玲子	602-8048	京都市上京区下立売通小川東入西大路町 146番地 中西印刷株式会社内	075-415-3661	075-415-3662	somukai-jimu@japhn.jp	国料 尚子	https://japhn.jp/
10 一般社団法人 日本小児看護学会	野間口千香穂	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル 株式会社毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jschn@mynavi.jp	米岡	https://jschn.or.jp/
11 一般社団法人 日本助産学会	片岡弥恵子	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル (株)毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jam@mynavi.jp	今野 優	https://www.jyosan.jp/
12 一般社団法人 日本精神保健看護学会	寺岡征太郎	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル (株)毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-japmhn@mynavi.jp	谷本	https://www.japmhn.jp/
13 一般社団法人 日本創傷・オストミー・ 失禁管理学会	紺家千津子	169-0072	東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル9F (株)春恒社 学会事業部内 日本創傷・オストミー・失禁管理学会事務局	03-5291-6231	03-5291-2176	etwoc@shunkosha.com	伊津野	http://www.jwocm.org/
14 一般社団法人 日本地域看護学会	麻原きよみ	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 株式会社ワールドプランニング内	03-5206-7431	03-5206-7757	office@jachn.net	折田 幸駿	https://www.jachn.net
15 一般社団法人 日本糖尿病教育・ 看護学会	瀬戸奈津子	170-0002	東京都豊島区東池袋2丁目39-2 大住ビル401 (株)ガリレオ学会業務情報化センター内	03-5981-9824	03-5981-9852	g015jaden-mng@ml.gakkai.ne.jp	宮本 遥	https://jaden1996.com/index.html
16 一般社団法人 日本母性看護学会	石井 邦子	170-0013	東京都豊島区東池袋2-39-2-401 (株)ガリレオ 学会業務情報化センター内 一般社団法人日本母性看護学会事務局	03-5981-9824	03-5981-9852	g031jsmn-mng@ml.gakkai.ne.jp	福島 裕子 常田 裕子	http://bosei.org/
17 一般社団法人 日本循環器看護学会	眞茅みゆき	112-0012	東京都文京区大塚5-3-13 一般社団法人学会支援機構内	03-5981-6011	03-5981-6012	jacn@asas-mail.jp	横川 和代	http://www.jacn.jp/
18 高知県立大学看護学会	野嶋佐由美	781-8515	高知県高知市池2751-1 高知県立大学看護学会係	088-847-5524	088-847-5524	kwuonaddress@cc.u-kochi.ac.jp	岩崎 順子	https://www.u-kochi.ac.jp/~nsgakkai/index.html
19 一般社団法人 千葉看護学会	増島麻里子	260-8672	千葉県千葉市中央区支鼻1-8-1 千葉大学大学院看護学研究所内	043-226-2447	043-226-2447	cans-adm@umin.ac.jp	前原 邦江 飯田貴映子	http://www.cans-net.jp/
20 日本アディクション 看護学会	松下 年子	244-0806	神奈川県横浜市戸塚区上品濃16-48 湘南医療大学保健医療学部看護学科 片山典子研究室	045-821-0111	045-821-0116	jadict-office@umin.ac.jp	担当者	http://plaza.umin.ac.jp/~jadictn/
21 日本運動器看護学会	吉田 澄恵	162-0801	東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター 株式会社国際文献社内	03-6824-9371	03-5227-8631	jsmn-post@as.bunken.co.jp s-yoshida@thcu.ac.jp		https://jarfn.jp/
22 一般社団法人 日本家族看護学会	荒木 暁子	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル (株)毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jarfn@mynavi.jp	川出	https://jarfn.jp/
23 日本看護医療学会	池松 裕子	487-8501	愛知県春日井市松本町1200 中部大学 生命健康科学部保健看護学科内 日本看護医療学会 事務局	0586-45-2101	0586-45-4410	info@jsnhc.jp	木村	https://jsnhc.jp/
24 一般社団法人 日本看護技術学会	角濱 春美	169-0072	東京都新宿区大久保2丁目4番地12号 新宿ラムダックスビル9F (株)春恒社学会事業部	03-5291-6231	03-5291-2176	jsnas@shunkosha.com	角濱 春美	https://jsnas.jp/
25 日本看護教育学会	永野 光子	260-8672	千葉県千葉市中央区支鼻1-8-1 千葉大学大学院看護学研究所 専門職育成講座気付	043-226-2397	043-226-2397	jasne_office@yahoo.co.jp	望月美知代	http://square.umin.ac.jp/~jasne/index.html
26 日本看護診断学会	佐藤 正美	160-0022	東京都新宿区新宿1-15-11 イマキレビル (株)グローバルエクスプレス・国際会議 センター内	03-3352-6223	03-3352-5421	jsnd@convention-access.com	安田 緑	http://jsnd.umin.jp/
27 日本看護福祉学会	生野 繁子	865-0062	熊本県玉名市富尾888番地 九州看護福祉大学看護福祉学部 社会福祉学科 吉岡久美研究室	0968-75-1891	0968-75-1891	kumish@kyushu-ns.ac.jp	吉岡 久美	http://kangofukushi.sakura.ne.jp/

学 会 名	理事長	学 会 連 絡 先					宛先(担当者)	ホームページアドレス
		郵便番号	学会連絡先住所	学会TEL	学会FAX	学会E-mail		
28 一般社団法人 日本看護倫理学会	前田 樹海	162-0801	東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター 株式会社国際文献社内	03-6824-9378	03-5227-8631	jnea-post@as.bunken. co.jp		http://jnea.net/index.html
29 日本看護歴史学会	田中 幸子	182-8570	東京都調布市国領町8-3-1 東京慈恵会医科大学医学部看護学科	03-3480-1151 内線2810		satanaka@jikei.ac.jp	田中 幸子	http://plaza.umin. ac.jp/~jahsn/
30 一般社団法人 日本災害看護学会	大野かおり	170-0013	東京都豊島区東池袋2丁目39-2 大住ビル401 (株)ガリレオ学会業務情報化センター内	03-5981-9824	03-5981-9852	g034jsdn-mng@ ml.gakkai.ne.jp	竹下 清日	https://www.jsdn.gr.jp/
31 一般社団法人 日本在宅ケア学会	中谷 久恵	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル (株)毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-jahc@mynavi.jp	大川	http://www.jahhc.com/
32 日本手術看護学会	ミルスしげ子	113-0033	東京都文京区本郷3-19-7 本郷三宝ビル4F	03-3813-0485	03-3813-0539	jona@yacht.ocn.ne.jp	星 正行	http://www.jona.gr.jp/ index.html
33 一般社団法人 日本新生児看護学会	内田美恵子	594-1101	大阪府和泉市室堂町840 地方独立行政法人大阪府立病院機構 大阪母子医療センター 看護部内 日本新生児看護学会 事務局	080-4839-0071	0725-55-6701	jann@kuba.jp	宇藤 裕子	http://www.jann.gr.jp/
34 一般社団法人 日本腎不全看護学会	岡 美智代	170-0013	東京都豊島区東池袋2-39-2-401 (株)ガリレオ学会業務情報化センター内	03-5981-9824	03-5981-9852	g045jann-mng@ ml.gakkai.ne.jp	鉦立 優作	http://ja-nn.jp/
35 日本生殖看護学会	坂上 明子	144-8535	東京都大田区西蒲田5-23-22 東京工科大学医療保健学部看護学科内 日本生殖看護学会事務局			jsfnjimu@gmail.com	三上	https://jsfn.org/
36 日本赤十字看護学会	守田美奈子	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内	03-5485-5777	03-5485-5777	jrcsns@redcross.ac.jp	佐藤 章子	http://plaza.umin.ac.jp/ jrcsns/
37 一般社団法人 日本難病看護学会	秋山 智	156-8506	東京都世田谷区上北沢2-1-6 公益財団法人東京都医学総合研究所 難病ケア看護内	03-6834-2290	03-6834-2291	office@nambyokango.jp	牛久保美津子	https://nambyokango.jp/
38 一般社団法人 日本放射線看護学会	太田 勝正	162-0801	東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター	03-6824-9370	03-5227-8631	rnsj@kokusaibunken.jp	担当者	http://www.rnsj.jp/
39 一般社団法人 日本母子看護学会	齋藤 益子	161-0034	東京都新宿区上落合1-16-7 エヌケイビル5F 株式会社 厚德社	03-5348-5018	03-5348-8021	jmica@koutoku.co.jp	松戸・関根	http://nihonboshikango. kenkyuukai.jp/about/
40 日本慢性看護学会	本庄 恵子	150-0012	東京都渋谷区広尾4-1-3 日本赤十字看護大学内		03-3409-0589	jscicn-office@umin. ac.jp	黒江ゆり子	http://jscicn.com/
41 日本ルーラルナーシング学会	大湾 明美	329-0498	栃木県下野市薬師寺3311-159 自治医科大学看護学部内	0285-58-7512	0285-44-7257	sharu@jichi.ac.jp	春山 早苗	http://www.jasrun.org/
42 一般社団法人 日本老年看護学会	湯浅美千代	162-0825	東京都新宿区神楽坂4-1-1 株式会社ワールドプランニング内	03-5206-7431	03-5206-7757	office@rounenkango. com	江頭麻衣子	https://www.rounenkango. com
43 北日本看護学会	古瀬みどり	990-9585	山形市飯田西2丁目2-2 山形大学医学部看護学科内	023-628-5462	023-628-5464	bureau@njans.net	古瀬みどり	http://www.njans.net
44 日本ニューロサイエンス看護学会	日高 艶子	830-8558	福岡県久留米市津福本町422 聖マリア学院大学看護学部看護学科 日本ニューロサイエンス看護学会事務局	0942-35-7271	0942-34-9125	obama@stmaryacjp. onmicrosoft.com	小浜さつき	http://www.jann-2012.com
45 一般社団法人 日本フォレンジック看護学会	加納 尚美	300-0394	茨城県稲敷郡阿見町阿見4669-2 茨城県立医療大学保健医療学部看護学科内 日本フォレンジック看護学会			abe.jafn.jimukyoku@ gmail.com	阿部	https://jafn.jp/
46 日本産業看護学会	河野 啓子	807-8555	福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1 産業医科大学 産業保健学部 産業・地域看護学講座内 日本産業看護学会事務局	093-691-7160	093-692-0259	m-sasaki@thcu.ac.jp	佐々木美奈子	http://www.jaohn.com/
47 看護教育研究学会	森 千鶴	206-0033	東京都多摩市落合4-11 東京医療学院大学保健医療学部 看護学科 森千鶴研究室内	029-853-8062	029-853-8062	info@nihonkango.jp	藤森 京子	http://www.nihonkango.jp/
48 日本NP学会	福永ヒトミ	100-0003	東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル (株)毎日学術フォーラム内	03-6267-4550	03-6267-4555	maf-np@mynavi.jp	瀧本	https://www.js-np.jp/
49 一般社団法人 日本在宅看護学会	山田 雅子	104-0045	東京都中央区築地3丁目8-5 聖路加国際大学2号館 一般社団法人日本在宅看護学会事務局	03-5550-2286		inform@janhc.jp	小野若菜子 佐藤 直子	https://janhc.jp/
50 一般社団法人 日本脳神経看護学会	百田 武司	112-0012	東京都文京区大塚5-3-13 4階 一般社団法人 学会支援機構内	03-5981-6011	03-5981-6012	jann@asas-mail.jp	横川 和代	https://www.jann-1973.jp/

*学会連絡先等の修正、その他の変更がある場合は、JANA事務局 maf-jana@mynavi.jpに
ご連絡いただきますようお願い申し上げます。

